

日本初の脳死臓器移植

透析患者には朗報

マスコミの白書を

「さわやか」会長 江頭 博幸

2月末から3月上旬に日本全土を騒然とさせた事件がありました。脳死による臓器移植です。日本初ということでもマスコミの取材攻勢は凄まじいがありました。

平成9年10月16日に臓器移植法が施行され、移植の時だけ脳死を人の死と認めるものです。一年半が経過しましたが、意思表示カードの普及が徹底せず、また、記入に問題があり、一例も移植がすすみませんでした。陰では「臓器移植禁止法」とまで言われていました。

私たち移植を希望している透析患者にとっては、今回の脳死による臓器移植は、大きな福音になりました。率直に言って朗報と言えます。

この40歳代の女性一人の身体から、心臓、肝臓、腎臓二個、肺二個、角膜二つが摘出されました。残念ながら肺は移植されませんでした。あとの六個の臓器は、移植を待っている六人の人々に移植さ

れ、生着しました。

心臓病の患者さんは人工心臓を装着され、あと二、三日の命でした。ドラマチックに移植ができた救われました

一人の脳死からの臓器提供で、六人の命が救われるのです。異論はあるにしても、すごいことには違いありません。私たち患者が感謝しなければならぬのは、ドナーの方

「さわやか」の ボランティア一年生 一層の広がりを

福岡難病連北九州市支部長 竹内 隆夫

とこの家族・親族の方が、生きるか死ぬかの瀬戸際の時にマスコミからプライバシーをはぎ取られながら、なお、脳死からの臓器提供を決意されたことです。頭が下がる思いです。

同時に、移植にたずさわられた、医師、看護婦、コーディネーター、パトカー、救急車、ヘリコプターなどの勤務員、等々多くの関係者にも感謝せずにはおられません。沢山の人の善意が、移植を成功させたのです。

同時に課題も残りました。ドナーとその家族へのプライバシーの保護と情報公開という、相反するものを

平成10年4月、送迎ボランティアとして正式に登録した「さわやか」の副会長としてボランティアの経験をした方がよいと判断したからです。「さわやか」の準備は平成7年秋よりすすめ、平成8年9月に設立総会、10月1日から送迎サービスを開始、当初の一カ月は30回の実績を納めることが出来ました。

バシーの保護と病院に対する情報公開の徹底の問題です。個人が特定できるまでのドナー（提供者）やレシピエント（提供を受ける人）への執拗なマスコミの報道は、自粛されなければならぬでしょう。あれほど騒がれれば、普通のドナーは、提供を拒否するでしょう。

また、病院が情報を非公開にして、密室で移植作業が行こなわれれば、世論から疑惑を招き、移植医療の停滞に繋がりがかねません。

プライバシーの保護と情報公開という、相反するものを

が煩雑になり、対応が大変になったので、直ちに役員会を開いて、八幡と小倉の二カ所に分け、もっとサービスが行えるよう行政側にも申し入れました。

どのように統一していくか、今後に課題を残しました。その他、医療費の問題など解決が必要なものが残り残りました。

でも、日本初の脳死からの臓器移植は国民に大きな衝撃を与えたことは否定出来ない事実ではないでしょうか。福岡協や「さわやか」では

の依頼書を受取りAさんから五百円と今日の送迎一回二百円を徴収して下さいと、一枚の領収書を渡される。終了時にいたって、月末にまとめて「さわやか」に納入する。

私の思ったことは、Aさん一回三百円の送迎費から、五百円がガソリン代として支給されます。貯金箱に八カ月入れ、12月に開けると51回分、七千八百円、早速難病連に寄付することにした。

意思表示カードの普及を促しています。まずは、患者自身と家族が意思表示カードを持つことを決定し運動しています。意思表示カードは、提供をしないことも出来ます。ボランティアの皆様で、興味のある方は、「さわやか」まで御連絡いただければ幸いです。

ボランティア研修交流会

時 4月18日
所 呼子 ジーラ遊覧
集合場所 8:00 KMMビル
8:30 八幡駅前
参加費 4000円

でも感謝されてきました。また北九州では難病患者（内部障害者）の利用が少ないのもっと広がってゆけばと願っています。今後は、ホームヘルプ事業に広げて行きたいと勉強中です。「さわやか」のより一層の広がりを願って...